水谷上遺跡発掘調査報告書

1984年3月

田市教育委員会

例　　言

1. 本書は、平田市西田地区の簸川地区農村基盤総合整備パイロット事業による県営圃場整備事業の実施に伴い、平田市本庄町において平田市が実施した発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は、島根県文化財保護指導委員西尾良一氏に調査を依頼し、国学院大学学生原俊二氏が補助した。
3. 調査にあたっては、松本岩夫氏（島根県教育委員会）、水谷上地区の方々、本庄考古学研究室より献身的なご協力をいただいた。
4. 測量図は、平田市中央土地改良区の作成になる図面を使用した。
5. 本書の編集執筆は、西尾良一氏に担当いただいた。

出雲市教育委員会
平田市立図書館
709
受付
18914
60. 1. 24

目　　次

Ⅰ　位置と環境 …… 1

Ⅱ　調査の契機と経過 …… 3

Ⅲ　調査の概要 …… 9

　1.　丘陵部（散布地）の調査 …… 9

　2.　水谷上１号古墳の調査 …… 19

Ⅳ　まとめ …… 30

寄贈
出雲市教育委員会
蔵書
60
1月24日
被合教育課
氏

図　版　目　次

図版 1　地図水谷上平面図（分布図）…… 5～ 6
図版 2　地図水谷上１号古墳付近地形図…… 7～ 8
図版 3　地図トレンチ設定図 …… 11～12
図版 4　第１調査区南壁土層断面図…… 13～14
図版 5　第２調査区北壁土層断面図…… 13～14
図版 6　第３調査区西壁土層断面図 …… 13～14
図版 7　第４調査区西壁土層断面図…… 15～16
図版 8　第５調査区南壁土層断面図…… 15～16
図版 9　第６調査区南壁土層断面図…… 15～16
図版１０　第７調査区北壁土層断面図…… 17～18
図版１１　第８調査区北壁土層断面図…… 17～18
図版１２　第９調査区東壁土層断面図…… 17～18
図版１３　水谷上１号古墳Ｎトレンチ東壁土層断面図 …… 21～22
図版１４　水谷上１号古墳Ｗトレンチ北壁土層断面図 …… 23～24
図版１５　水谷上１号古墳Ｗトレンチ北壁土層断面図 …… 23～24
図版１６　遺物実測図・丘陵部 …… 25
図版１７　遺物実測図・水谷上１号古墳Ｎトレンチ …… 26～27
図版１８　遺物実測図・水谷上１号古墳Ｅトレンチ …… 28～29
図版１９　調査区全景写真 …… 34
図版２０　水谷上１号古墳全景写真 …… 35
図版２１　水谷上１号古墳Ｎトレンチ写真 …… 35
図版２２　水谷上１号古墳Ｅトレンチ写真 …… 36
図版２３　水谷上１号古墳Ｗトレンチ写真 …… 36
図版２４　丘陵部遺物写真 …… 37
図版２５　水谷上１号古墳Ｎトレンチ遺物写真 …… 38
図版２６　水谷上１号古墳Ｅ・Ｗトレンチ遺物写真 …… 39

Ⅰ 位置と環境

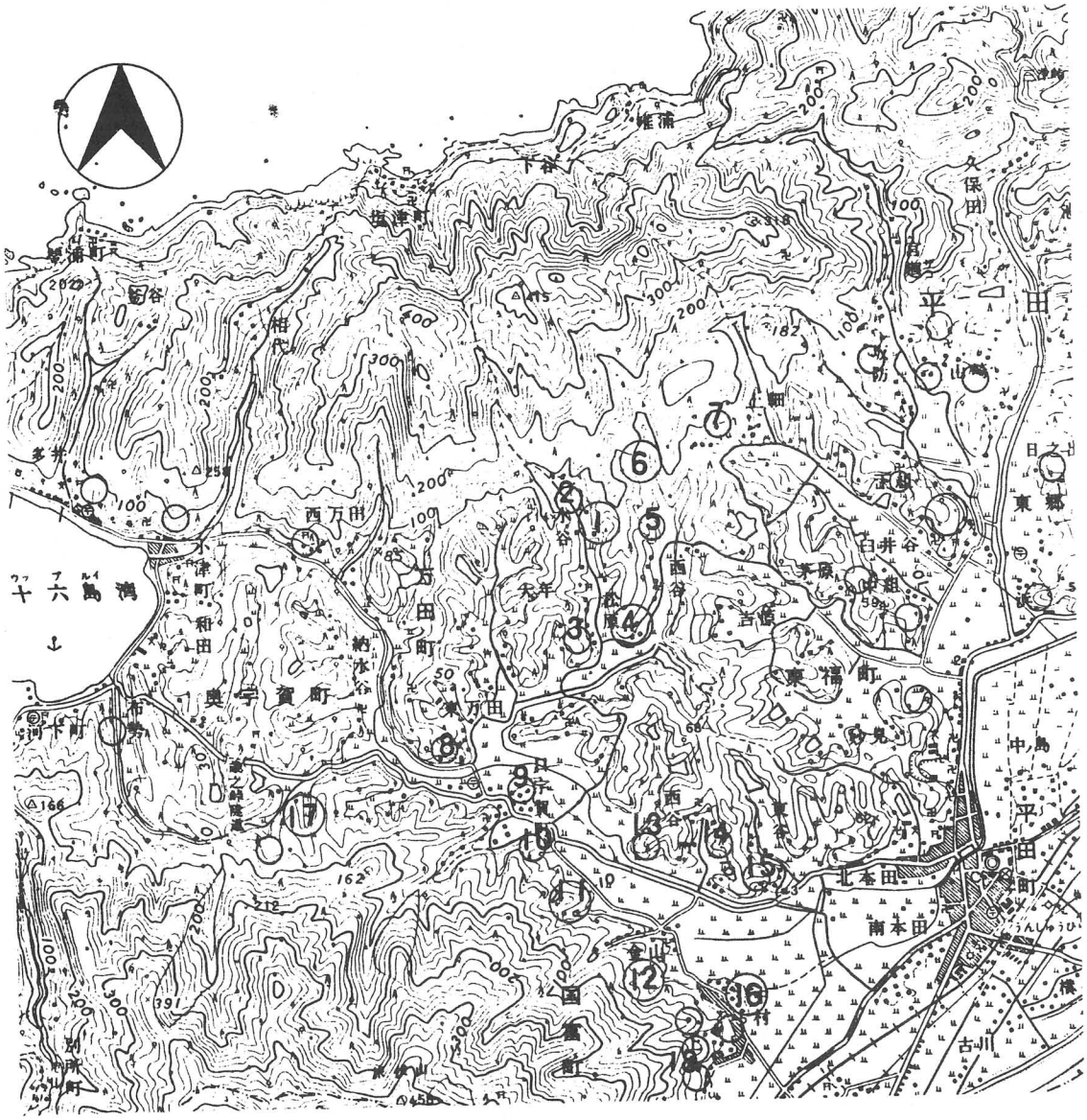
平田市本庄町は、島根半島の十六島地塊西部の南面に広がる丘陵を船川が開い谷に位置する。

この丘陵地域は、生活条件に恵まれ、平田市の遺跡の半数以上が分布することから、古代からの生活の場であったことが知られる。縄文時代の顕著な遺跡は発見されていない。しかし、島根半島においても、鹿島町佐太講武貝塚、大社町菱根遺跡等、数多くの遺跡が知られること、海岸、湖沼に恵まれ、北山山脈には、現在でも本州鹿が棲息することから推して、近い将来遺跡が発見されるであろう。

弥生時代の代表的遺跡に猪目洞屈遺跡がある。ゴホウラ製の貝輪を装着した１２号人骨からは供献されたと思われる、弥生後期の甕形土器片が出土している。他に左皿遺跡付近の採集品が知られるが、その遺跡は、僅少である。最近、中村遺跡から墨書土器など奈良時代の須恵器が多量に出土した。この扇状地の端にある包含層は、現在の川床面下３ｍであった。これから考えれば、平田市において縄文・弥生の包含層は、低湿地・扇状地では、相当深い位置に多くの遺跡が眠っていると推測される。

古墳時代、古式土師器を出土する３遺跡を除いて、明瞭な前期古墳は知られていない。全長３０ｍを越える古墳も知られてはいない。２０ｍ前後の規模の墳丘を有する例は、蔵仙古墳・本寿寺古寺・小谷下古墳・上島古墳・荒木一号墳がある。それらは、国富・久多美地区に集中している。

本遺跡の周辺には、水谷横穴群箱式石棺を有した小谷下古墳、丘陵の緩斜面、段丘状台地に広がる山崎遺跡、山陰須恵器編年（１）のⅡ期に入る深谷窯跡、Ⅲ期の姥ケ谷窯跡横穴式石室を有する古墳が分布する西谷古墳群、作暮古墳群、久多見上横穴群など多くの遺跡がある。



1	古　墳　群	水谷上古墳群	10	古　墳　群	森田古墳群
2	散布地	水谷上遺跡	11	〃	左皿〃
3	古　墳	水谷下古墳	12	〃	定岡谷〃
4	散布地	山崎遺跡	13	〃	門原〃
5	窯　跡	深谷遺跡	14	古　墳	山根垣古墳
6	古墳群	西谷古墳群	15	寺院跡	西西郷廃寺
7	横穴群	久多見上横穴群	16	散布地	中村遺跡
8	古墳群	西田小学校裏古墳群	17	横穴群	岩屋谷横穴群
9	古　墳	口宇賀古墳	18	古　墳	上島古墳

（宇加川水系を中心とした古代遺跡のみ）

Ⅱ　調査の契機と経過

西田地区の総合パイロット事業の実施に伴い、水谷地区においても、圃場整備の計画が策定された。この地区では、水谷古墳（水谷上１号古墳）が周知の遺跡であり、元太古墳（水谷上２号墳）も昭和４３年の標柱設置の踏査で知られていた。

昭和５８年１月、市の依頼を受けた県教育委員会の分布調査が実施された。その結果、丘陵部の字堂の前で散布地、字七塚において古墳群の存在が確認された。

そんな中で地元より、圃場整備を早期に実現したいという要望がなされ、財政面及び調査体制等について検討がなされた結果、次のとおり実施することとなった。

内容は、該当区を上下二分割して、古墳の密集する七塚の下区を今年度の調査対象から除くこととし、上区の丘陵の散布地の遺跡の有無及び範囲確認と１号墳の範囲確認とを水稲の収穫後行うこととした。

今季は記録的な雪積日が続いた。調査は、降雪とともに開始することになった。

調　査　日　誌　抄

昭和５８年

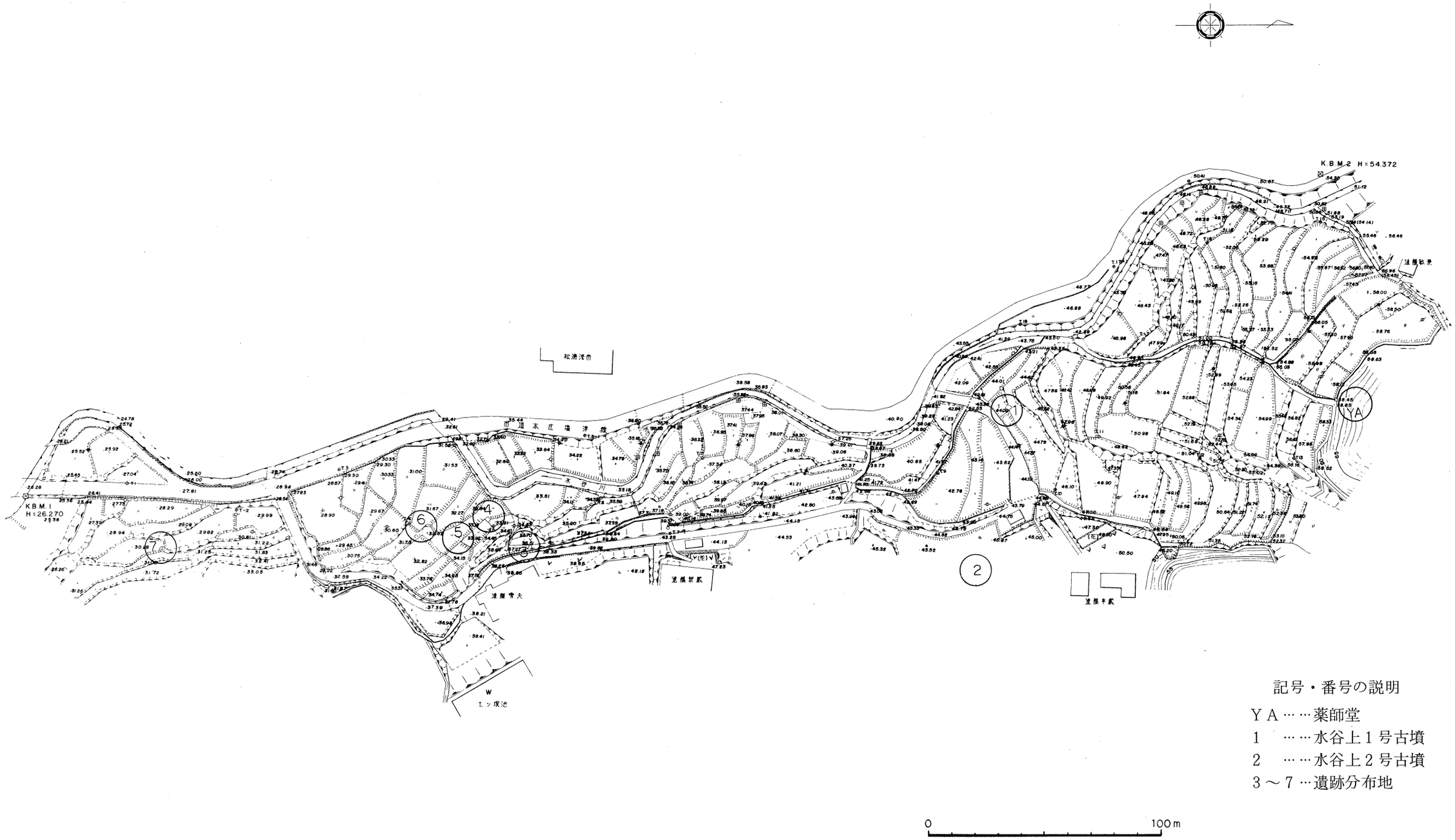
１２月１７日	市教委、平田市中央土地改良区、地元、調査担当者の四者立会により、トレンチ場所を設定。
１２月２４日	写真撮影。1・2トレンチを入れ地山まで堀り下げる。遺構遺物なし。
１２月２５日	３・４・５・６・７・８・９トレンチを入れた。３・４・５トレンチから、須恵器の小片出土、同トレンチ完堀。 １号墳にＮトレンチを入れ、切削面を追う。須恵器片出土。墳丘裾を示すような石列発見。

1月25日　県文化課松本氏調査指導。1～9トレンチ完堀。
1～9トレンチ実測。

2月11日　1号墳付近の地形図の実測開始。Nトレンチ拡張。切削面を確認。W・Eトレンチを入れ墳端の石列を確認。

2月12日　地形図実測完了。W・Eトレンチ実測。Wトレンチ石室側で閉塞石確認。

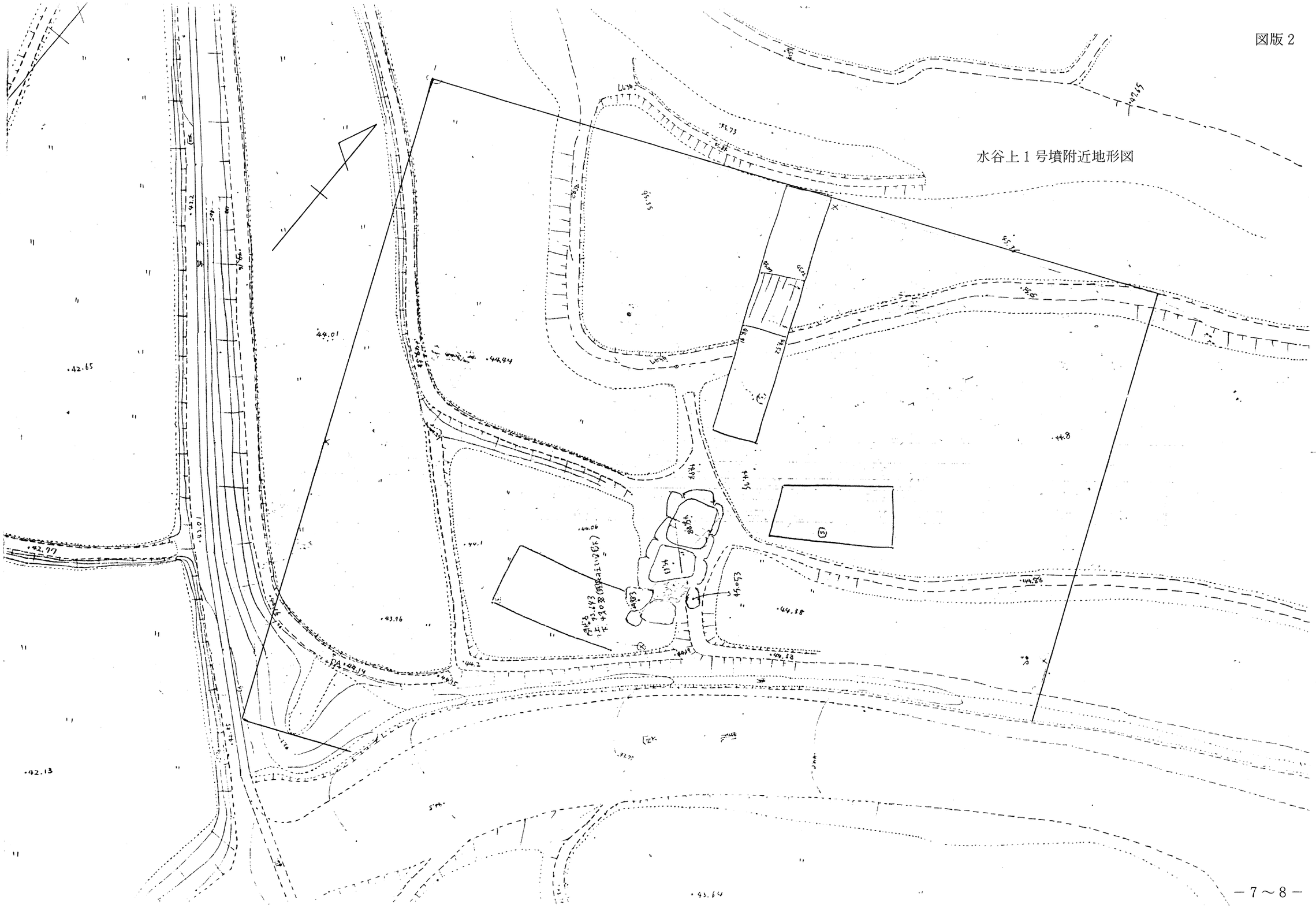
図版１　水谷上平面図（分布図）



記号・番号の説明

ＹＡ……薬師堂
１　……水谷上１号古墳
２　……水谷上２号古墳
３～７…遺跡分布地

図版 2



Ⅲ 調 査 の 概 要

1 丘陵部の調査

昭和５８年１月に実施された分布調査の際、丘陵西側の崖下において須恵器が採集されたこと、また南面する丘陵は谷中で小台地を呈し、居住条件として、最適の地であることから、住居跡を第一に想定した。

また、昭和４３年の踏査の際、付近に寺があったとの口碑を得ていたこと、当時、西田小学校に保管されていた古瓦の出土地を当水谷と推定できたことなどから、寺院跡の想定もして発掘区を設定した。

１・２トレンチ　丘陵先端のやや広い水田を選定した。
遺構遺物なし。

３トレンチ　須恵器採集地点直上の水田を選定した。遺構なし。
出土品
須恵器片２点　染付片１点　土師器１点

４トレンチ　丘陵中腹で一番広い平垣として選定した。遺構なし。
出土品
須恵器片２点

５トレンチ　４トレンチと同理由で９０°振って設定した。遺構なし。
出土品
須恵器片１点

６トレンチ　丘陵高位で広い水田を選定した。
遺構、遺物なし。

７トレンチ　現在休耕田であるが、今回の事業により、水田化の計画があること、旧塩津街道の直上に立地していること、現在薬師堂と呼称されている五輪搭群に近いことから選定した。
遺構なし。　出土品　白磁片１点

8トレンチ　7トレンチと同理由で設定した。遺構なし。

出土品

須恵器片2点

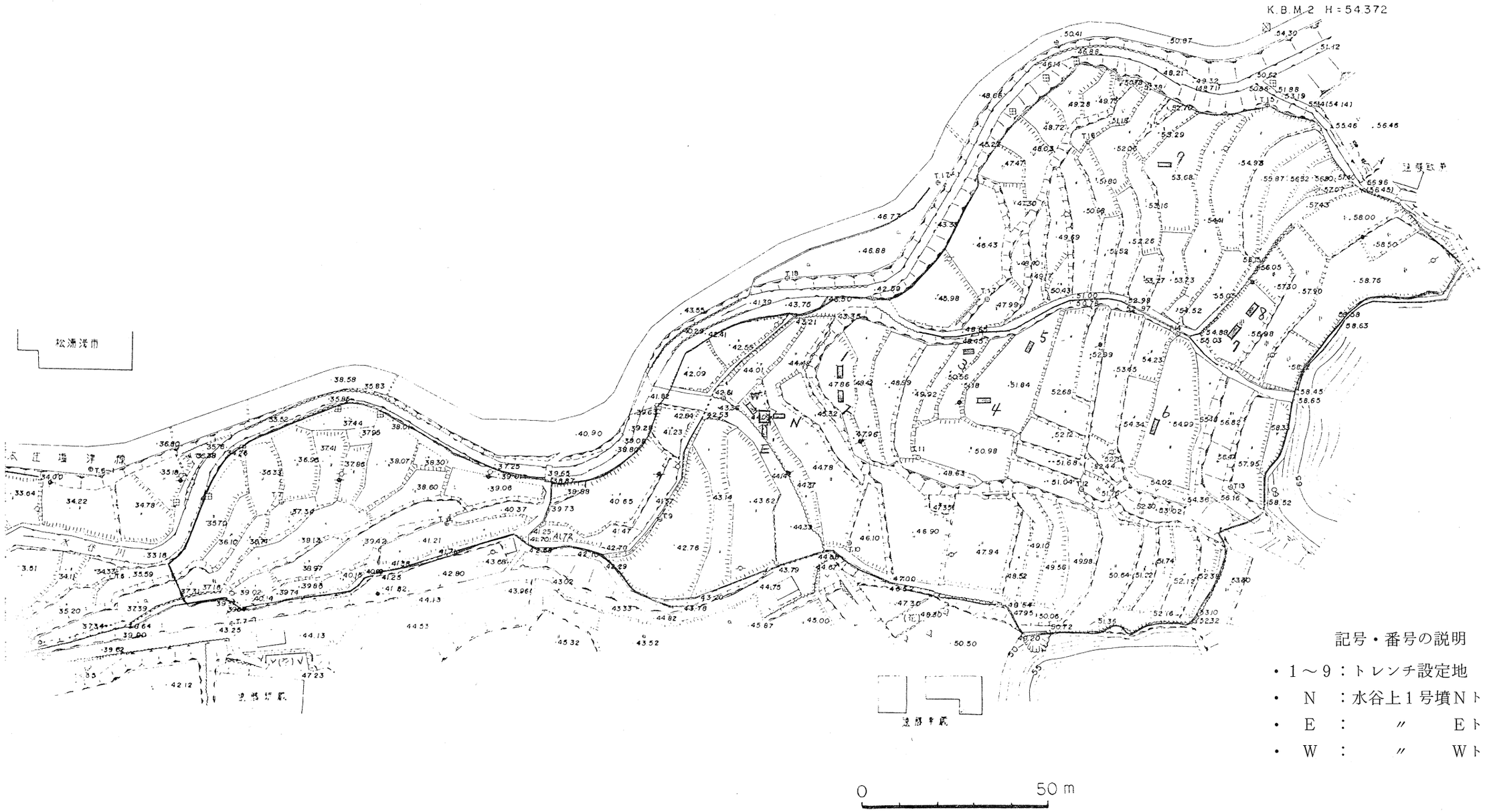
9トレンチ　1～6トレンチの設定場所を主丘陵とした場合、支丘陵に相当すると思われる場所の中から、一番広い水田を選び設定した。遺構なし。

出土品

極微細の磁器片

図版３

トレンチ設定図

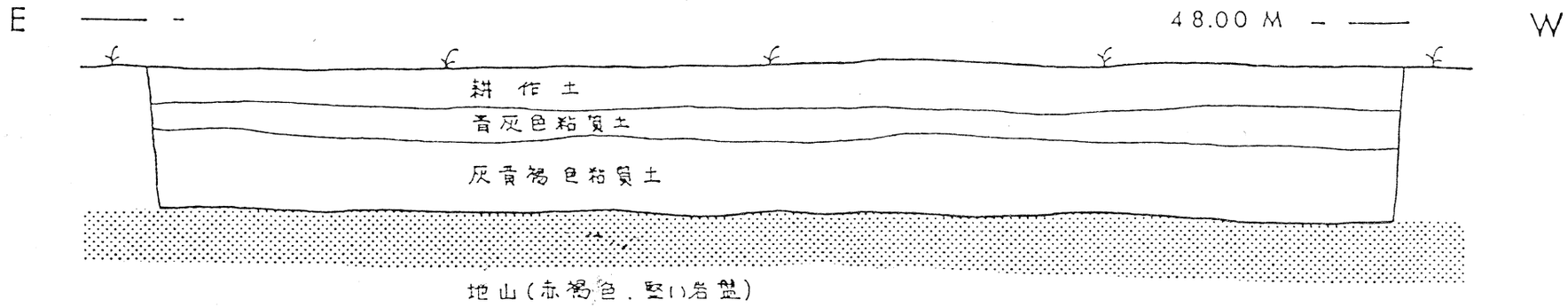


記号・番号の説明

- １～９：トレンチ設定地
- Ｎ　：水谷上１号墳Ｎトレンチ
- Ｅ　：　〃　　Ｅトレンチ
- Ｗ　：　〃　　Ｗトレンチ

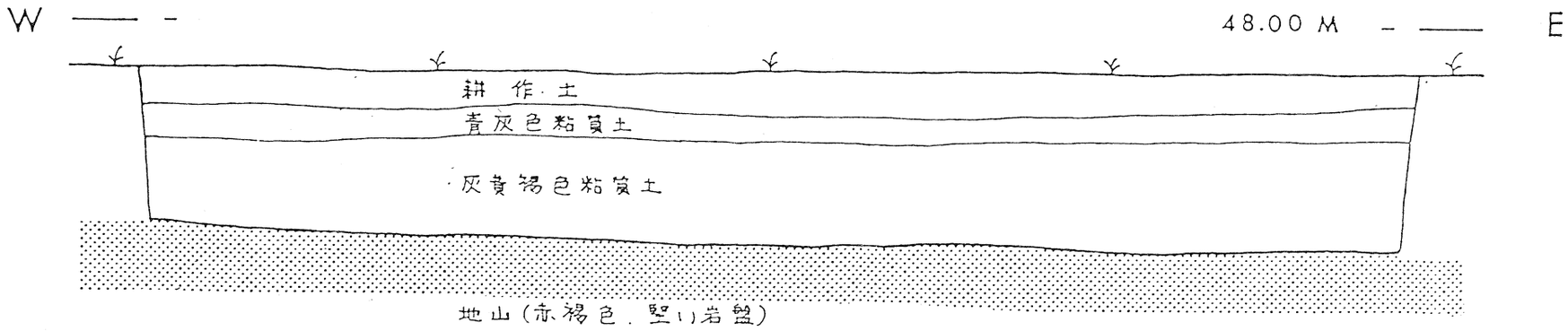
図版 4

第 1 調査区南壁土層断面図



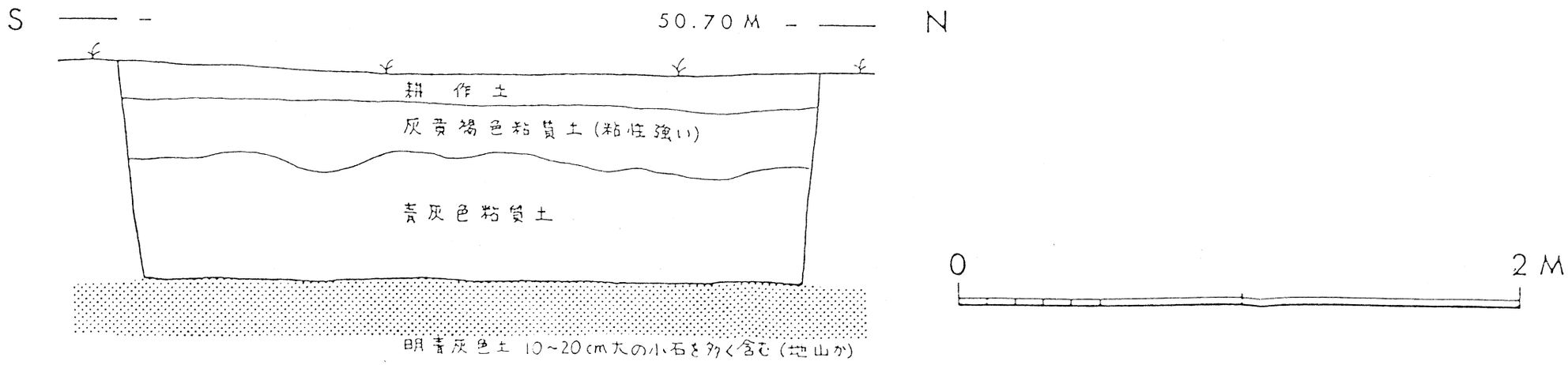
図版 5

第 2 調査区 北壁土層断面図



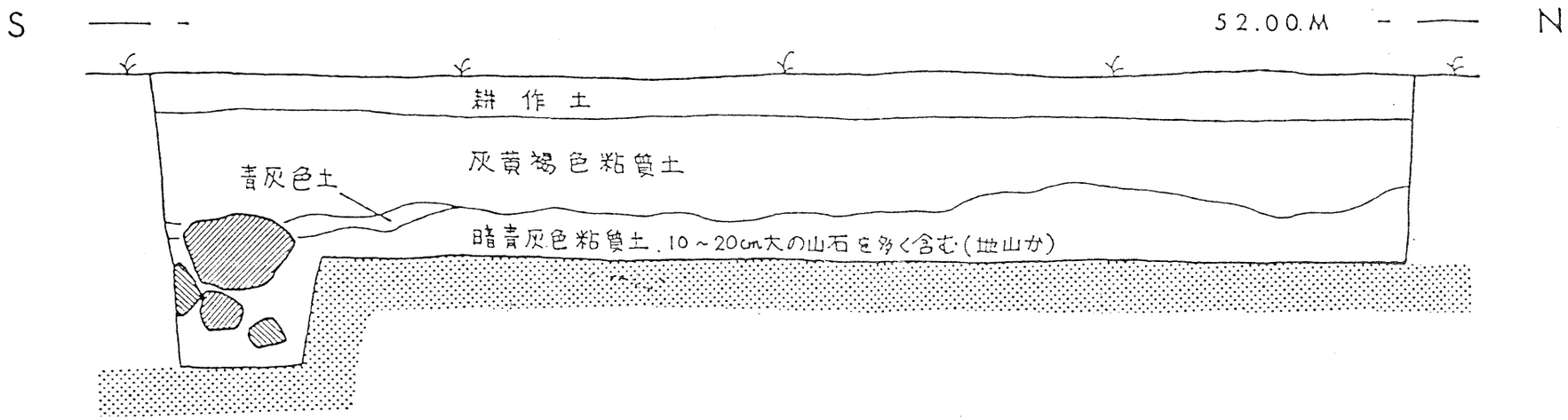
図版 6

第 3 調査区西壁土層断面図



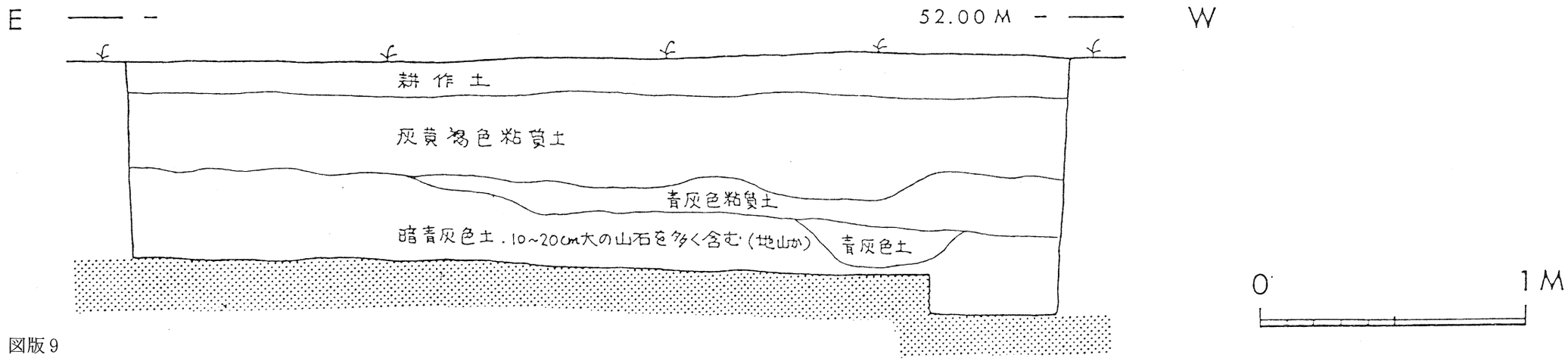
図版7

第4調査区西壁土層断面図



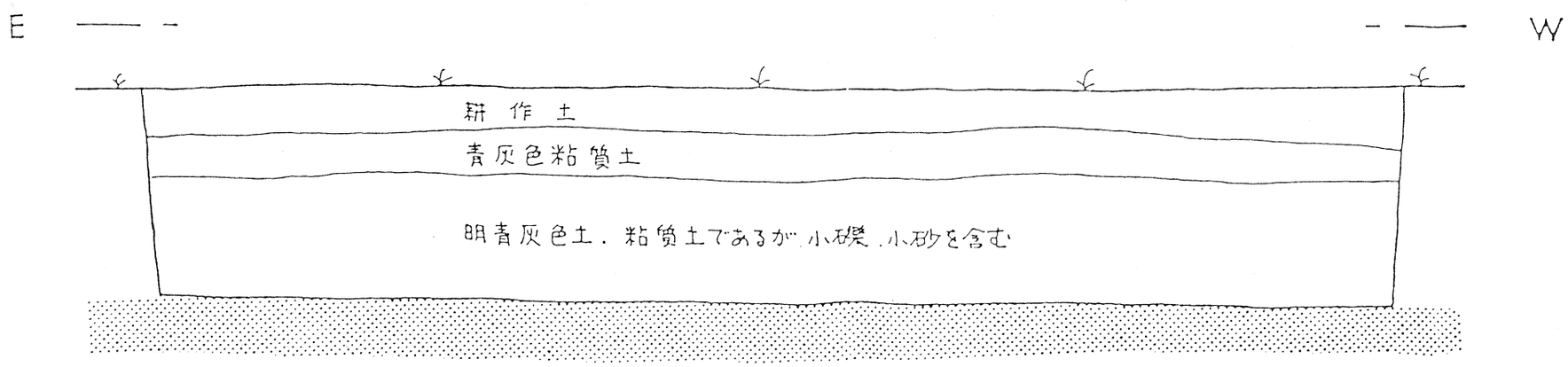
図版8

第5調査区南壁土層断面図



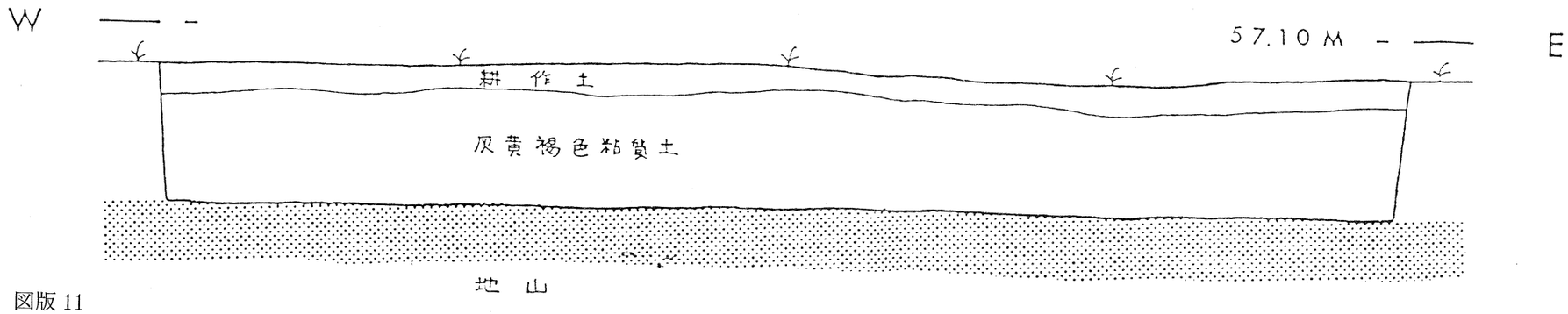
図版9

第6調査区南壁土層断面図



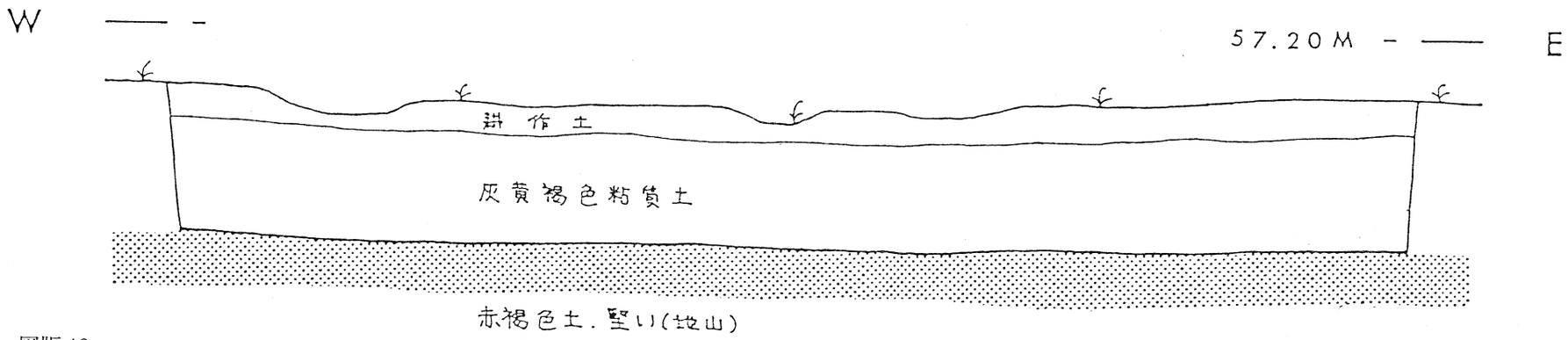
図版 10

第 7 調査区北壁土層断面図



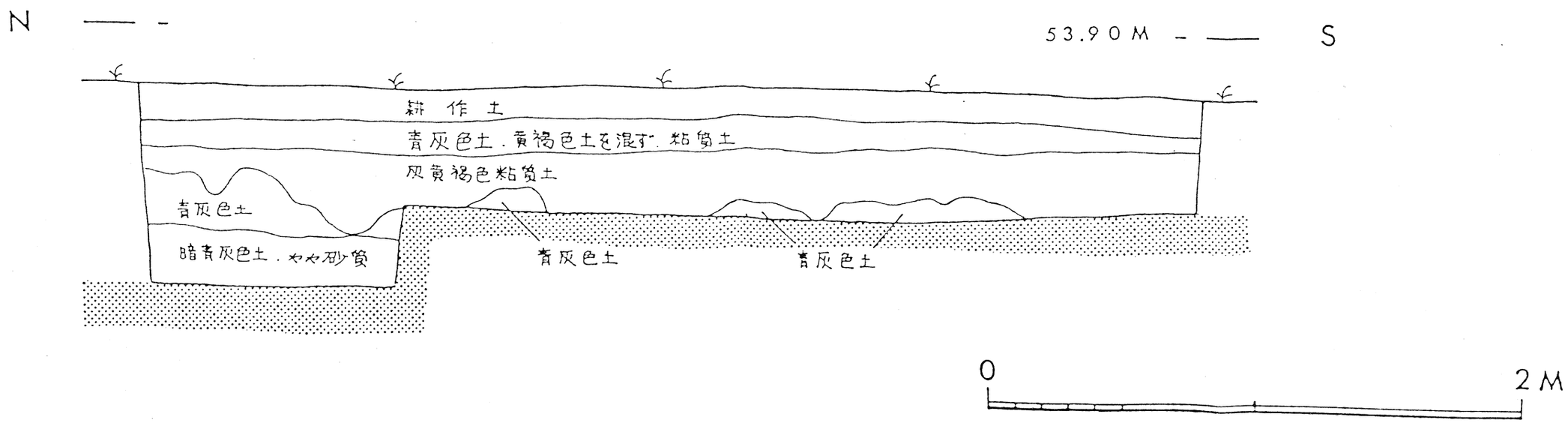
図版 11

第 8 調査区北壁土層断面図



図版 12

第 9 調査区東壁土層断面図



2　水谷上１号古墳の調査

島根県遺跡目録（昭和５０年版）の通し№１２２７市町村№１５に記載されている水谷古墳（円墳）を水谷上１号古墳と呼跡したい。

調査は、範囲確認が主目的であるので自然丘陵の切削面を探すことで古墳北側背面にＮトレンチを設定した。Ｎトレンチから墳端を示すと考えられる石列が出土したことから古墳東西の両サイドに墳端確認のためＥ・Ｗの２本のトレンチを加えた。

＊Ｎトレンチ　　北側では耕作土の下に地山が露れ、切削面を検出した。切削面は、古墳の奥壁から測って、上端で7.3ｍ、下端で5.4ｍ、上端と下端の比高は0.66ｍであった。

奥壁から、3.4ｍ～2.8ｍの間に石列状の遺構らしいものが検出された。この石材は、石室の構築に用いる硬質のものでなく、平田市の丘陵地に見られる軟質性のものである。この石列は他のトレンチからの検出例から推して墳丘の裾（変換点）あたりに使用された石材群と推定できる。しかし、これら石材群から奥壁にかけての土層の耕作土の下は、青灰粘土質のみで盛土の確認はできなかった。

遺物は畦の保護杭列の青灰色土層から須恵器９片出土した。

＊Ｅトレンチ　　東側の墳端をおさえるため、又、Ｎトレンチで検出した石列の性格を確認するために設定した。

玄室の中心から、４ｍ～５ｍ離れた所から、石群が検出できた。

出土品は須恵器２片と土師器の小１片であった。

＊Ｗトレンチ　　道路の敷設で石室の破壊があったと考えられることから、石室に一部入った地点から西墳端をもとめて設定した。

羨道の西壁を検出することはできなかったが、南壁角の閉塞施設の石群を認めた。石の多い土層であったが、墳端については、明確なものはトレンチ西角に発見した石材がそれを示すものとも思われる。

出土品は須恵器1片であった。

＊出　土　品　　須恵器

1）　蓋　　蓋坏、蓋・身各1点

蓋　天井部の破片である。天井部はヘラ削り（2回以上）で、方向は右回りである。天井部は平らを呈していたと考えられる。

身　受部の下面から底部の破片でたちあがりを欠いている。底部から推して浅いタイプであり、受部は水平かやや上向きであり、ヘラ削り（1回以上）で方向は右回りである。内面はナデののち仕上げの一向ナデを施している。

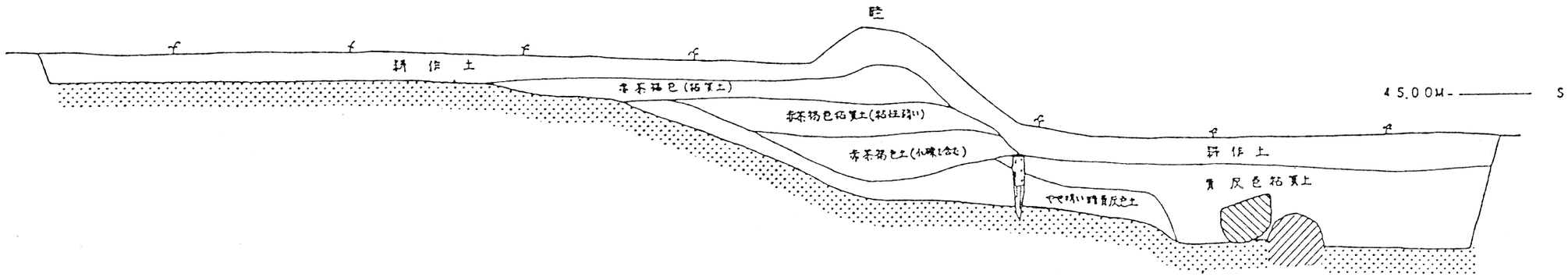
2）　甕　　器形の詳しいことの分る破片は1片もない。内外面、胎土に特徴がある。 外面に黒褐色を呈す破片が3片ある。内面のあて道具の跡が非常に深く軟い時期に調整したことと考えられる。

胎土は均質ではあるが、破片の割れ口がザラザラしていてもろいという特徴がある。

3）　その他　詳しい器種は不明であるが、壷類の底部が一片出土している。

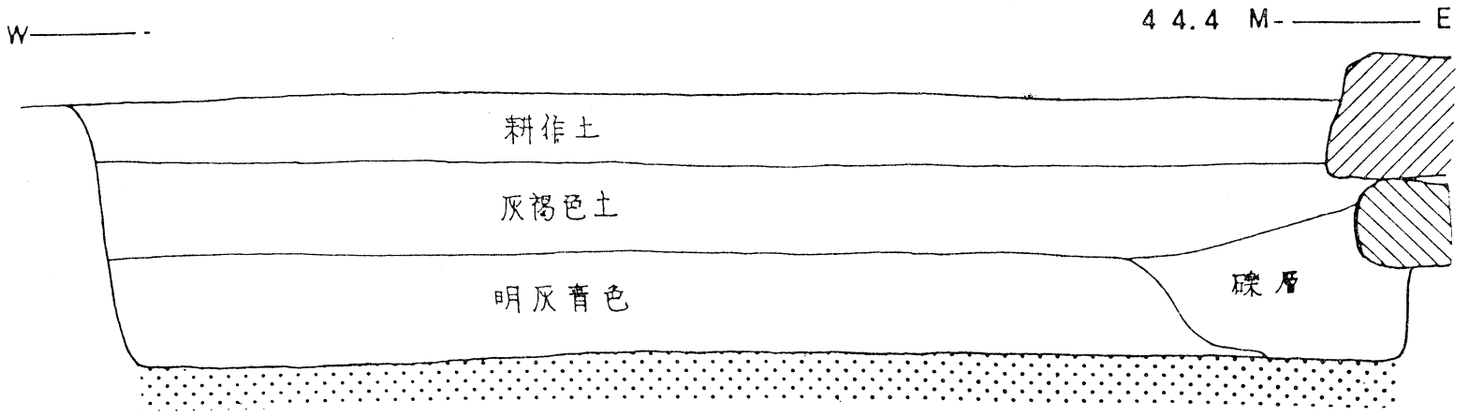
図版１３

水谷上１号墳Ｎトレンチ東壁土層断面図



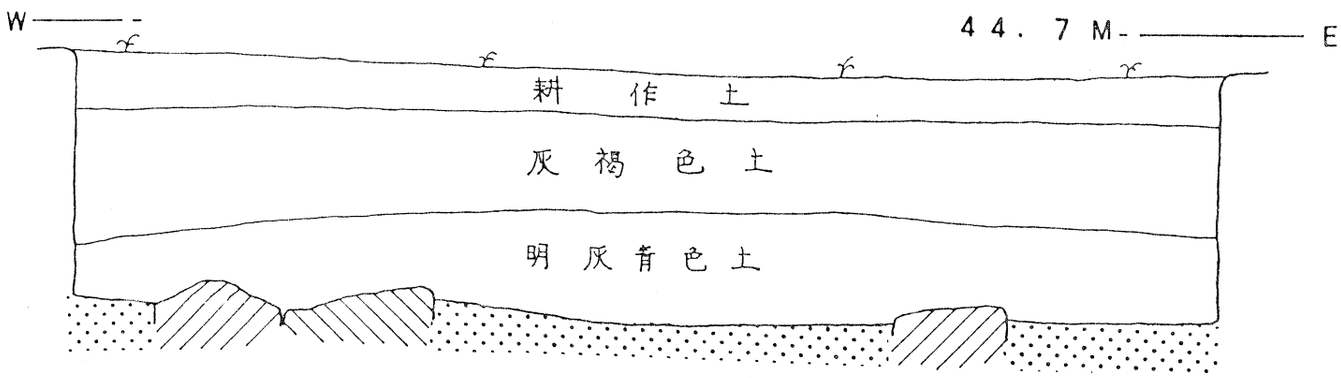
図版１４

水谷上１号墳Ｗト　ンチ北壁土層断面図



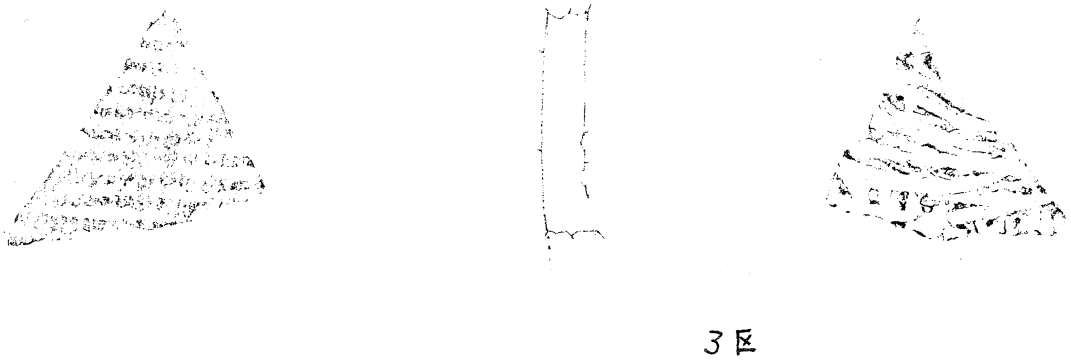
図版１５

水谷上１号墳Ｅトレンチ北層土層断面図

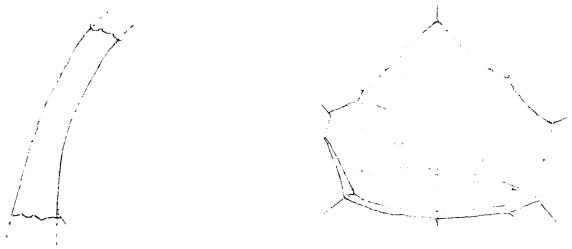


図版 16

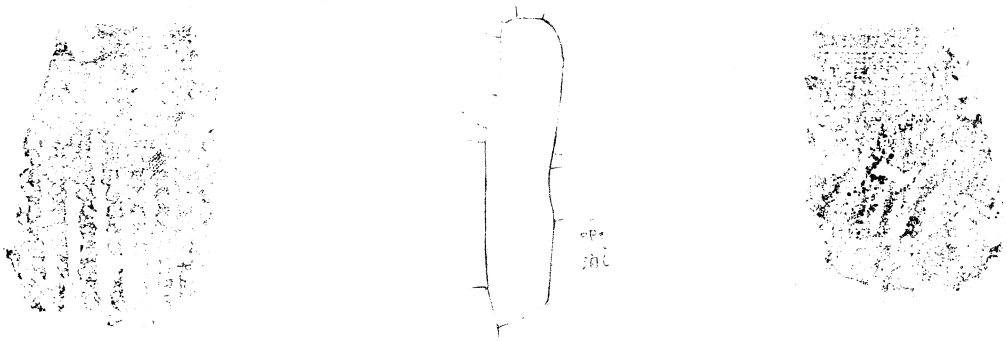
遺物実測図・丘陵部



3区



3区

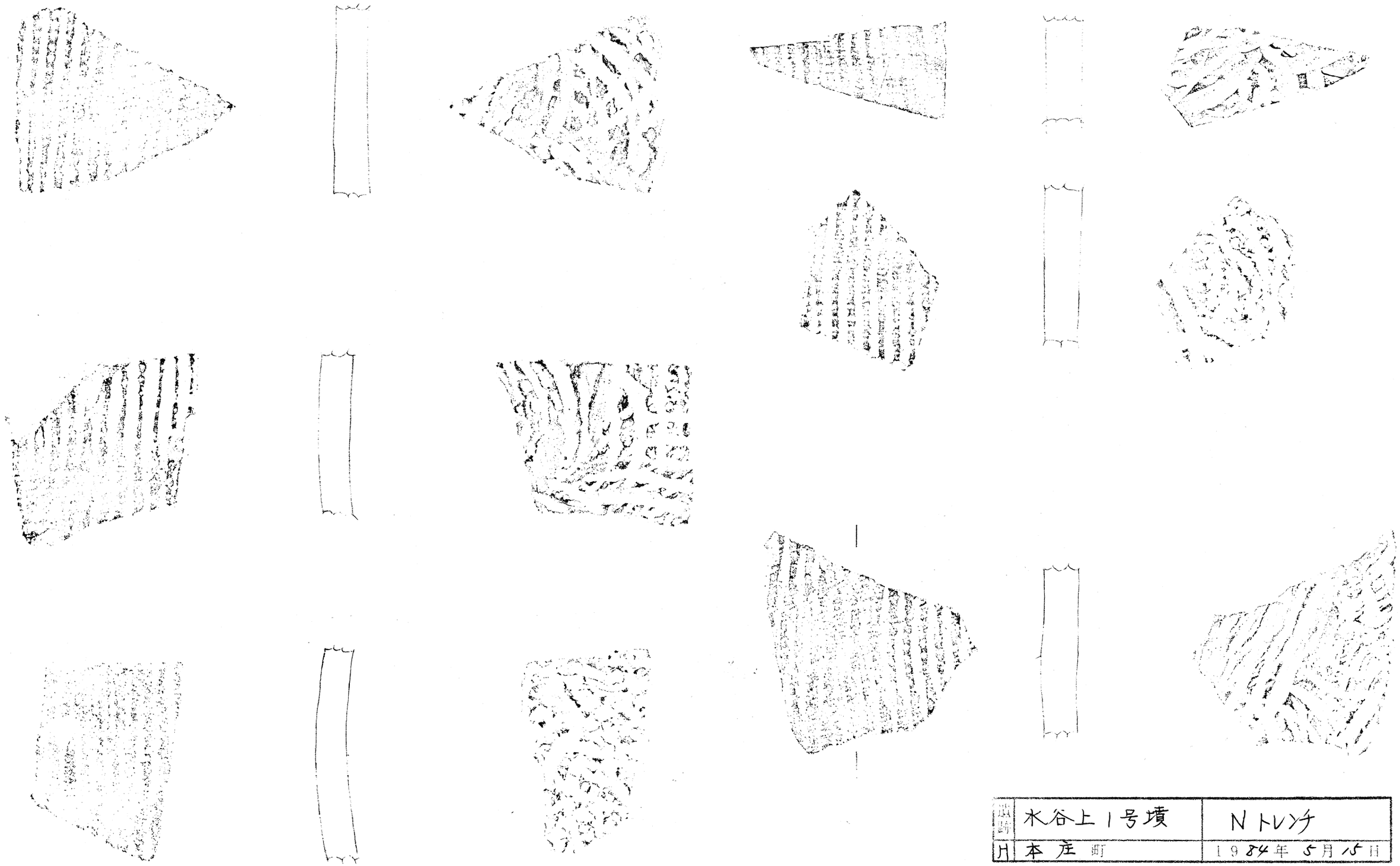


4区

7区

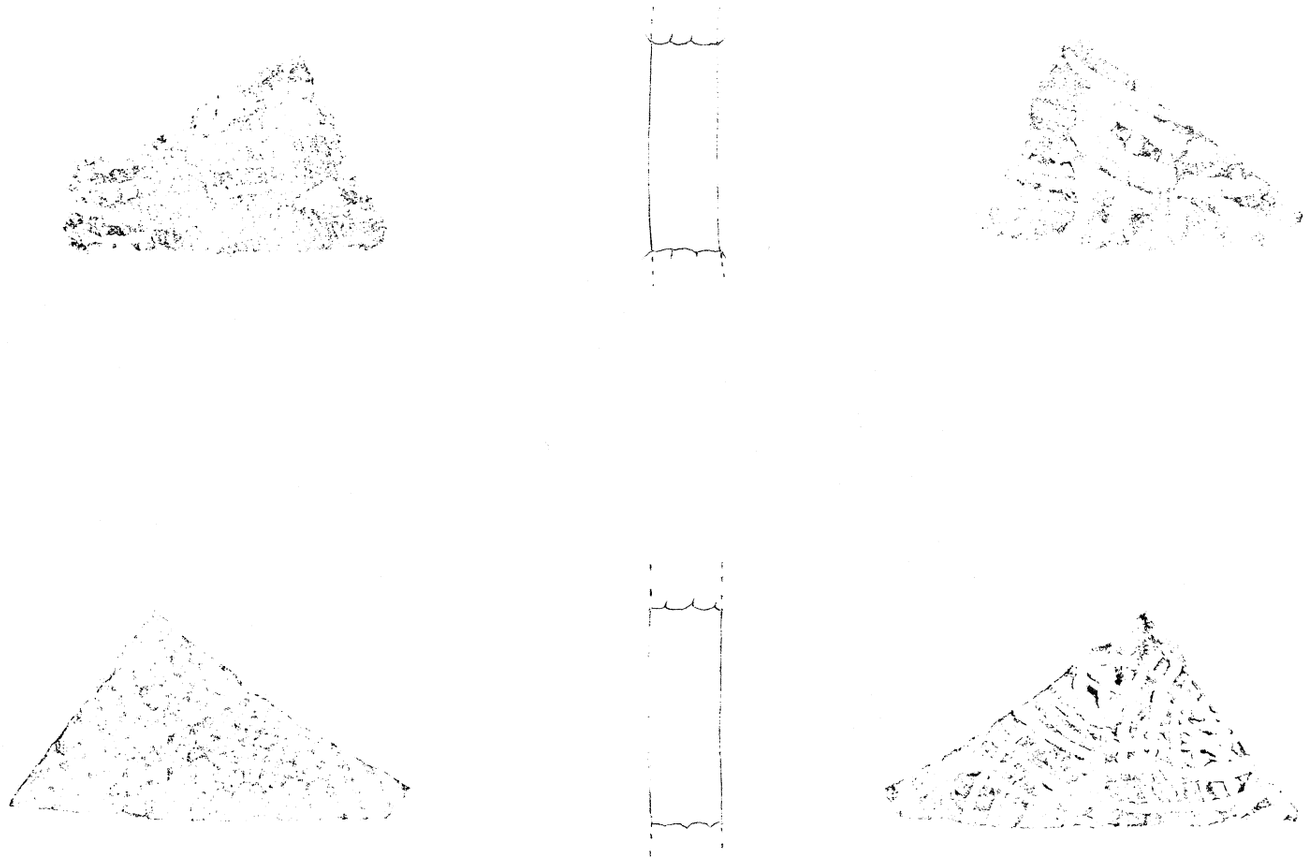
遺跡	水谷上遺跡	丘陵部各調査区
H	本庄 町上水谷	1984年 5月15日

遺物実測図・水谷上１号古墳Ｎトレンチ



遺跡	水谷上１号墳	Ｎトレンチ
月	本庄 町	1984年 5月15日

遺物実測図・水谷上１号古墳Ｅトレンチ



遺跡	上水谷1号墳	Eトレンチ
月	本庄 町 上水谷	1984年 5月 15日

Ⅳ　ま　と　め

丘陵の散布地については、明確な包含層遺構を検出することができなかった。以前、高畦耕作の時、須恵器を採集して小学校へ持参したとの証言を発掘作業中に得たことから、トレンチも三本増加したが、遺物の数は、８片と非常に少量であった。

丘陵に遺物を残した遺跡の性格を発掘調査によって知ることはできなかった。遺物の出土が須恵器中心で少量であったことから判断してこの丘陵上の遺構破壊から、棚田化（灌漑施設の敷設）に至る時期は、奈良時代からそう遠くない時期であったと推定したい。

恐らく、遺物を示す時代までは、高燥の地勢から台地上は居住区であったと考えたい。しかし、遺構破壊の時期には、谷水田の狭隘さを克服するために、この好条件の居住区を耕作地に変えて、耕地面積の拡大を図り、悪条件の傾斜地へ住居を移して行ったと考えられる。それは農民の生産性への努力と執念をうかがい知ることができる。

寺院跡について、雲陽誌に「水谷の観音平という山にあり、古山ぬけて本尊埋れたり……」と記載された観音堂は現在調査区より離れた奥、加納宅地内にある。同書は、延宝元年（１６７３年）に堀り出し、堂を建立したと記している。しかし、現在、観音平と呼ばれる地名は、地元の皆さんも記憶されていない。(2)

調査区に接する地にある五輪塔群は、薬師堂と呼ばれてはいるが、その来歴を伝えていない。字名に「堂の前」と名付けられているが、今回の調査では調査面が少なく、その関係を明らかにすることはできなかった。

○水谷上１号古墳

墳形については、遺跡目録に記されている円墳を立証するにはいたらなかった。

墳丘規模については、墳丘端部に石を置くことから、玄室の中心を古墳の中心点と仮定すれば南北で１２ｍ、東西の長さ１０ｍを測ることができる。

古墳の築造にあたって、背面の丘陵端部の古江層の地山を切削して溝を形成し

ている。その溝は、恐らく、傾斜地であることから、U字形を呈して古墳をめぐっていると考えられる。

埋葬主体は、露出している石材の構成から、横穴式石室と認められる。現在、水田中から見える部分は、玄門部から奥壁までである。昭和43年の筆者踏査時には、古墳は水田に島のようにあったが、現在は道路が敷設され、トレンチの結果からも、羨道部は破壊された可能性が高い。玄室の内法は、およそ幅1.2m、長さ3.0m程度と推定できる。

周溝から出土した蓋坏が古墳の時期を示すとするならば、それが扁平で浅いタイプであること、又ヘラ削による調整がなされていることにより、山陰須恵器編年(3)のⅢ期末ないし、Ⅳ期にわたるものであると判断できることから、概ね6世紀末から7世紀初頭と推定したい。

1号墳は立地と石材の比較から、水谷上古墳群の盟主墳と考えられる。2号墳は現状では大きく破壊されてはいるが、残っている切石と立地から1号墳に続く盟主墳と推定される。この2基の古墳は水谷を墓域とする集団（水神社の祭祀権をもつ集団）の長クラスの墳墓として築かれ、下流の字七塚に群がる古墳とは異る系列墓と推定できる。

船川（風土記に言う宇加川）流域は、平田地方における遺跡の密集地帯であることは前述した。代表的なものに上島古墳、西西郷廃寺、山根垣古墳、上流では、西谷古窯跡群などがある。条里制の遺称の地名は西田地区において、他に比して多く残している。(4)

これらのことから、出雲風土記抄(5)の著者が、楯縫郡の余戸里を万田、本庄を比定する説には、遺跡の分布からは、考えがたい。楯縫郡の郷制は、自然村落を基に設定されたと考えている。それは、記載の郷も河川もそれぞれ4つであり、佐香郷－佐香川、楯縫郷－多久川、玖潭郷－都宇川、沼田郷－宇加川と組合せでき、これは、それぞれの河川の形成する谷水田を基幹とする自然村落郷里制を当てたと推察できる。

つぎに、宇賀川流域とその近接する地域の内部構造の知られる古墳を分類してみた。

	箱式石棺	横穴式石室	横穴
海浜部	河下築山 森石	北許豆神社	
久多美	久多美門原 佐藤谷	山崎 伊儀1・2 日の出	久多見上 三ツ岩
宇賀川上流	森田1・万田刈山 水谷下・峴神社	西谷・水谷上1～7 万田刈山・口宇賀	光尾谷・水谷 岩屋谷・西谷
〃 下流	左皿1・2　上島	山根垣・中家荒神 定岡谷（群）要石	中村・定岡谷 左皿
美談	美談神社1	美談神社2 東禅寺（群）	惣ケ谷

出雲地方を中心に小規模古墳を村落古墳(6)としてまとめられた山本清氏は、その推移を箱式棺など中期的様相をもって発生し、後期的様相において増加すると言い得ると指摘されている。表に掲げた平田市西部の古墳は出土品の明らかなものが少なく、詳細に検討できない。しかし、その推移は、他地域と等しく、村落古墳のあり方を立証する。

分布調査が充分でなく、明確な数がつかめないが、西谷古墳群(7)は、構成数からは、大きく上回ると推定される。宇加川流域での式内社は水谷に鎮座する水社のみであることから判断して水谷上1・2号墳の被葬者たちは、祭祀権を握っていたと考えられ、この流域の小社会において優位を占めていたと考えられる。

終りに古墳の全面保存が決定していることに調査関係者は喜びを禁じえない。かけがえのない文化遺産を守ることができることを地元の皆さんとともに誇りにしたい。水谷地区は、この谷に古くから鎮座する水神社を松原谷の熊野神社への合併合祀を二度にわたって廃案にされ、氏神の格式を守り続けられている。これら水谷の皆さんの熱い郷土愛に畏敬の念を感じるとともに大きな拍手を贈りたい。

注

1. 山本清「山陰の須恵器」（島根大学開学十周年記念論文集　昭和３５年所収）
2. 黒　長尚「雲陽誌」享保２年（１７１７）

   同書に記載された「楯縫郡本庄村観音堂」は、現在、加納清氏の墓地に「宝永五年蓮入坊」と刻まれた塔婆が建つことから、延宝元年（１６７３）の建立が宝永五年（１７０８）に没した蓮入坊の手によることが知られる。「大日本地誌大系４２」昭和４６年による。
3. 注1.に同じ
4. 山本清「平田市域の歴史」（「平田市誌」昭和４４年所収）
5. 岩崎時照「出雲風土記抄」天和３年（１６８３）
6. 山本清「山陰地方村落古墳の様相」（島根大学論集９号　昭和３４年所収）
7. 通伝寺付近と山腹にわけられるが、山腹に分布する群は、平田特有の高地位に占地することから、調査を難しいものにしている。筆者は、平田の山の高位に分布する古墳を「山岳古墳」と称し、後日論及したい。

図版 19

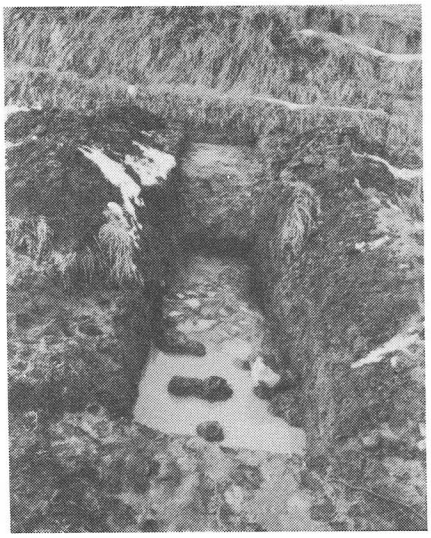
全　景　写　真

図版 20

古　墳　全　景

図版 21

N　ト　レ　ン　チ

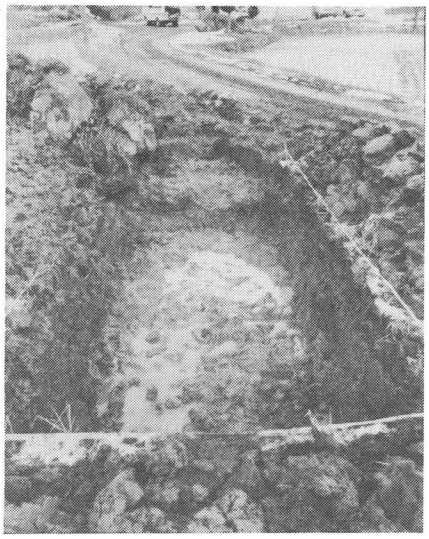


図版 22

E トレンチ

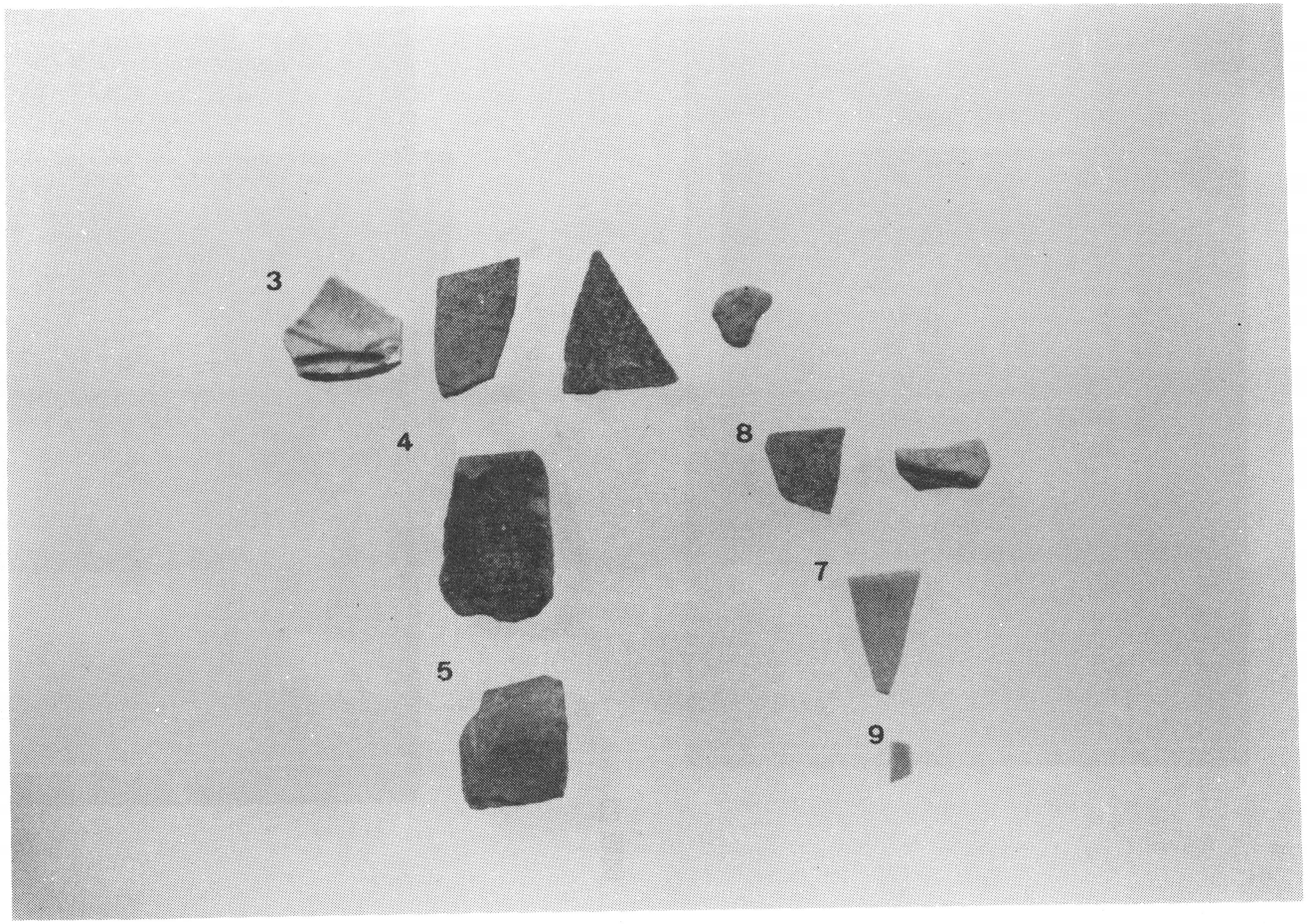
図版 23

W トレンチ



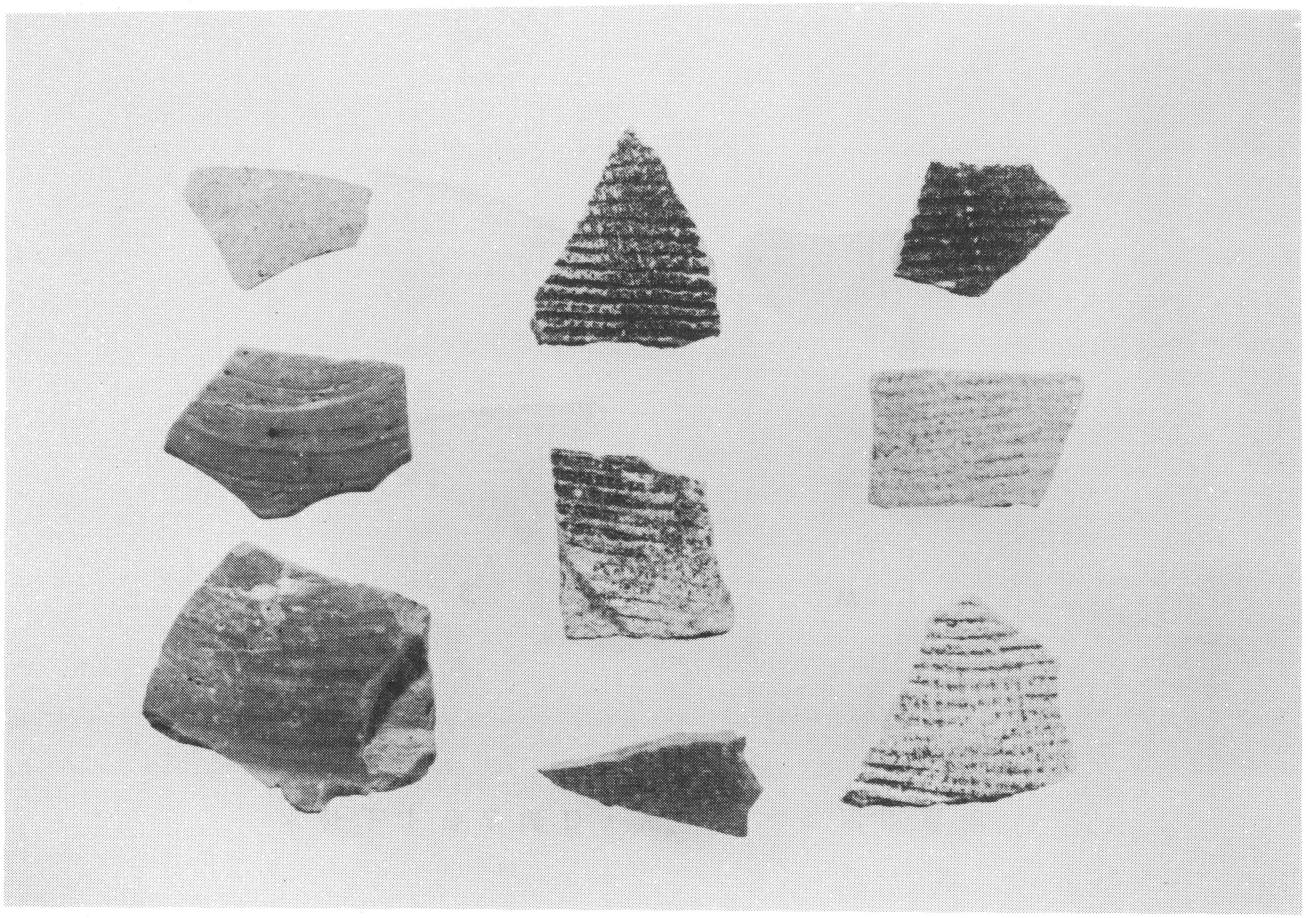
図版２４

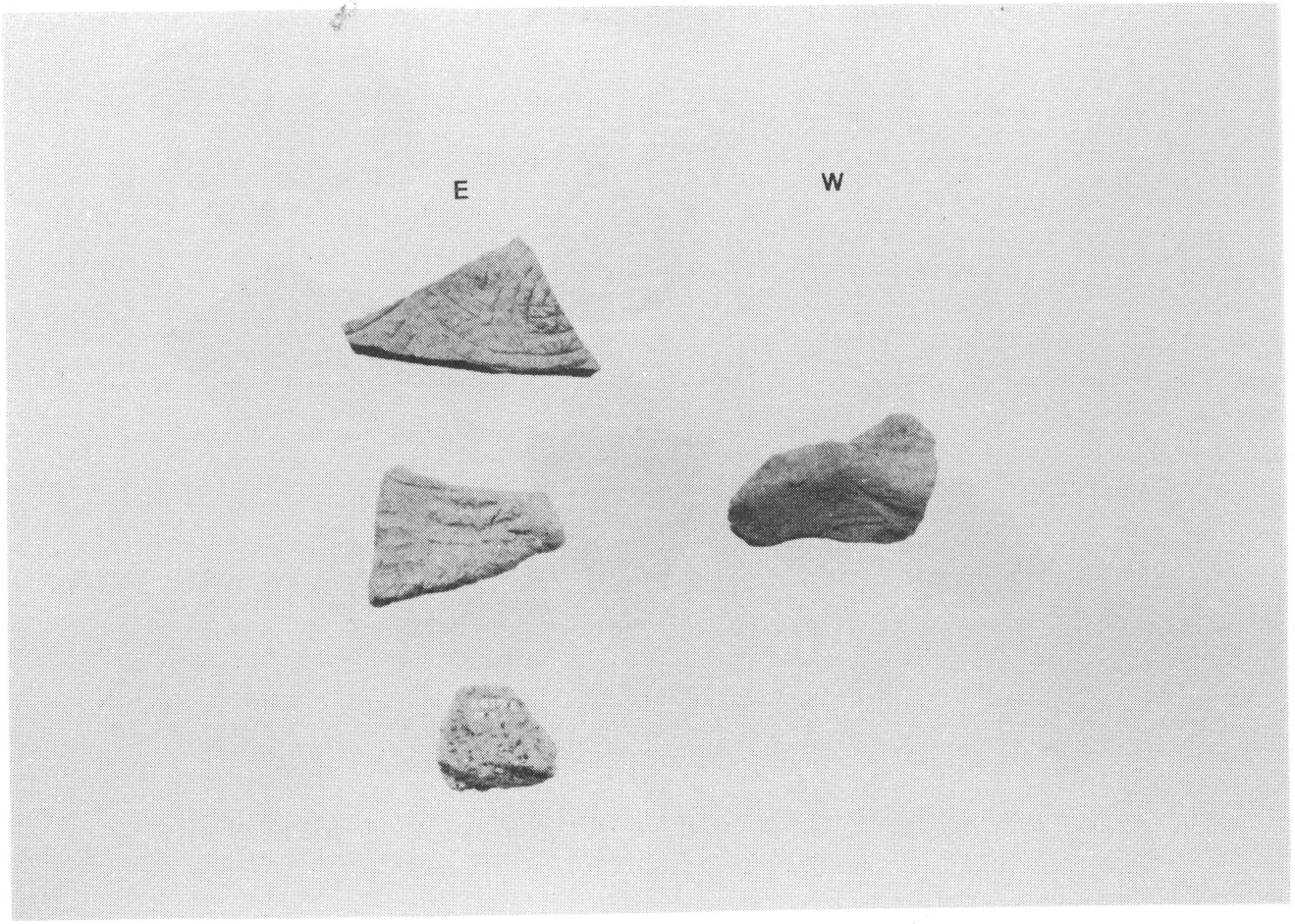
丘　陵　部　出　土　遺　物



図版２５

水谷上１号古墳Ｎトレンチ出土遺物



図版２６

水谷上１号古墳Ｅ・Ｗトレンチ出土遺物